

あり渡海の便よきハ吹浦を才一と一酒田
加茂浦を次とよ。伝正名所表に出羽の名所
の月別の碇といふありてその詳なるハ戎後
院より奥州境まで出羽の溪谷にけ名が一戎
元曰昔も海山の成美の鰐形刻述て海中に
入是をとりれの碇といふ今飛碇と稱する是
なりを海山御海は向ひ海中の碇岐を顧る
六帖よよこ人不知

ふもきとよめるとたぬをいいて羽が。

つる後の碇の碇一とおゆを

とありといは碇こといふ伝正按さるに海山
に登りて飛碇を望めば山の成美裂罅りの
碇を重むらぶと一古人の語お當にを一六
帖の歌の公引れても程公ハとりれさつる後
の名あれむよやいあり一飛碇此外に出羽
よ属さる碇が一は伝正よ的當う似たりと
云くを海山の成美の鰐形罅一と云傳傳る
ハ貞觀年中山一の焼く時の事一記に
山上、險岩危嶺從巖忽崩烈與熾焰俱飛
墜入海中成一寫即今飛嶋是也云く